

令和 6 年度 岩手県明るい選挙啓発 授業アンケート調査の結果について

1 岩手県明るい選挙啓発授業について

(1) 啓発授業の目的

児童、生徒、学生等を対象として、社会参加と政治や選挙を学び、選挙への興味・関心を高めることを目的として、選挙制度等の授業を実施するものです。

(2) 啓発授業の実績

令和 6 年度は、全体で 49 校、延べ 4,391 人の児童、生徒、学生が啓発授業を受講しました。前年度から 3 校減り、受講者数は 1,400 人程度減少しました。

(単位:校、人)

学校の別	令和 5 年度	令和 6 年度	差引増減
小中学校	7 校 ・ 308 人	8 校 ・ 269 人	+ 1 校 ・ ▲39 人
高等学校	36 校 ・ 4,620 人	32 校 ・ 3,530 人	▲ 4 校 ・ ▲1,090 人
支援学校	4 校 ・ 103 人	5 校 ・ 120 人	+ 1 校 ・ + 17 人
大学等	5 校 ・ 831 人	4 校 ・ 472 人	▲ 1 校 ・ ▲359 人
合計	52 校 ・ 5,862 人	49 校 ・ 4,391 人	▲ 3 校 ・ ▲1,471 人

2 アンケート調査の概要について

(1) アンケート調査名称

令和 6 年度 岩手県明るい選挙啓発授業アンケート調査

(2) アンケート調査の目的

明るい選挙啓発授業の前後において、生徒等の興味・関心がどのように変化したかを検証するため、アンケートを実施しました。

また、このアンケート結果は、今後、明るい選挙啓発授業を県内で推進するため、未実施市町村をはじめ、関係機関に対する周知用チラシなどに活用し、啓発授業の普及・拡大を図ることとしています。

(3) アンケート調査の対象者

啓発授業を実施した学校が多かった高等学校の生徒を対象に、主に県が実施した高等学校 15 校 延べ 1,303 人から得たアンケートの回答を集計したものです。

なお、令和 6 年度に啓発授業を受講した高等学校の生徒数 (3,530 人) のうち 36.9% から回答が得られました。

(4) アンケート調査方法、調査期間等

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの間に、啓発授業を受講した生徒を対象に、授業前と授業後にアンケート票を配布し、高等学校が取りまとめて、後日、事務局（県選管・市選管）へ送付する方法等により回収し、集計しました。（全15校中、授業後のみアンケートを実施した学校は4校）

3 調査の結果について（総括）

調査結果は、前年度とおおむね同様の結果となっており、啓発授業を実施することにより、生徒の政治等への関心や選挙への意義の理解度、投票意欲が大きく高まっていることから、引き続き、啓発授業を実施することが重要であると考えられます。

また、政治や社会問題に関心を持つためには、新聞記事を使った授業やディベートの授業を行った方が良いとの回答割合が前年より増加していることから、より効果的な授業の実施方法について検討が必要と考えられます。

<参考> アンケート集計対象校内訳 ※欠席や未回答により集計数は少なくなっていること。

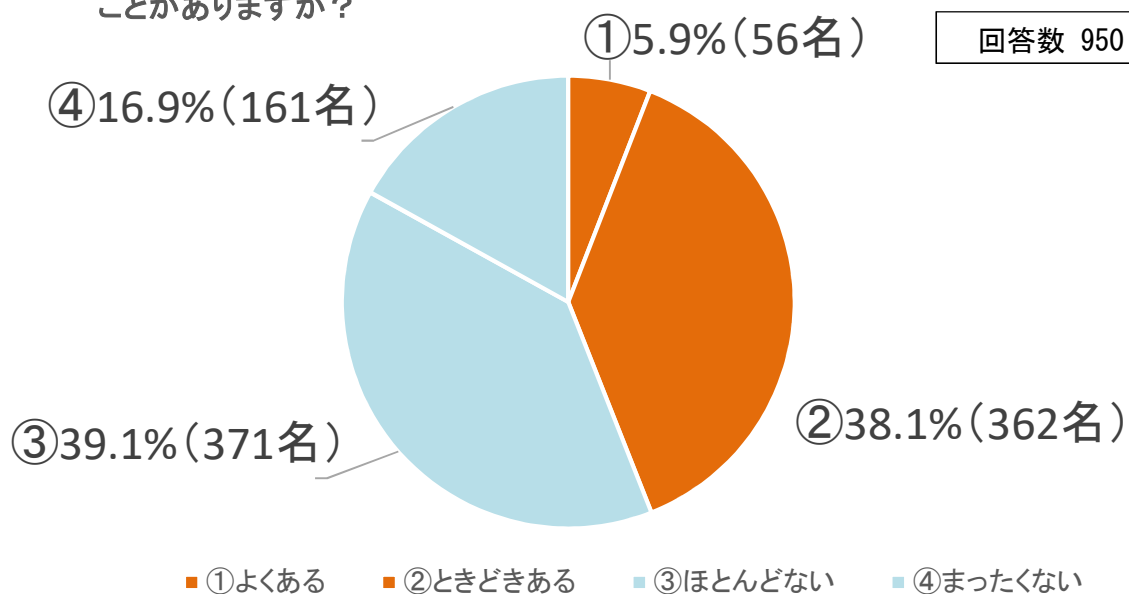
1	県立紫波総合高等学校（県主催）	3年生（62名）
2	県立千厩高等学校（県主催）	3年生（163名）
3	県立前沢高等学校（奥州市主催）	3年生（26名）※授業後のみ
4	県立住田高等学校（県主催）	3年生（22名）
5	県立不来方高等学校（矢巾町主催）	2年生（280名）
6	県立杜陵高等学校奥州校（奥州市主催）	全学年（47名）※授業後のみ
7	県立遠野緑峰高等学校（遠野市主催）	2年生（33名）
8	県立大東高等学校（県主催）	2年生（53名）
9	県立岩泉高等学校（岩泉町主催）	全学年（116名）
10	県立花泉高等学校（県主催）	2年生（26名）
11	県立沼宮内高等学校（県主催）	2年生（30名）
12	県立前沢高等学校（奥州市主催）	2・3年生（58名）※授業後のみ
13	県立水沢農業高等学校（奥州市主催）	2年生（43名）※授業後のみ
14	花巻東高等学校（花巻市主催）	2年生（174名）
15	県立花巻南高等学校（花巻市主催）	2年生（170名）

(1) 政治等への関心について

授業実施後、家族や友人と政治や社会問題について話してみようと思う生徒が授業前に比べて大幅に増加しており、啓発授業を通じて、生徒の政治や社会問題への関心が高まったことが分かります。

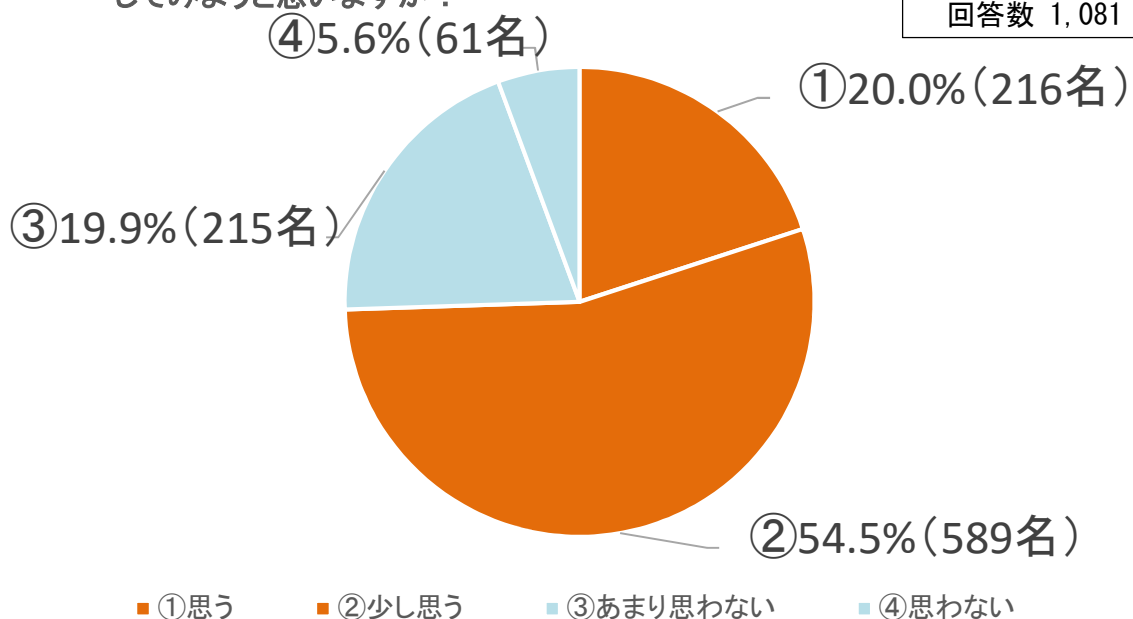
(1)－1 【授業前】家族や知人(友人)と政治や社会問題について話
ことがありますか？

回答数 950



(1)－2 【授業後】家族や知人(友人)と政治や社会問題について話を
してみようと思いますか？

回答数 1,081

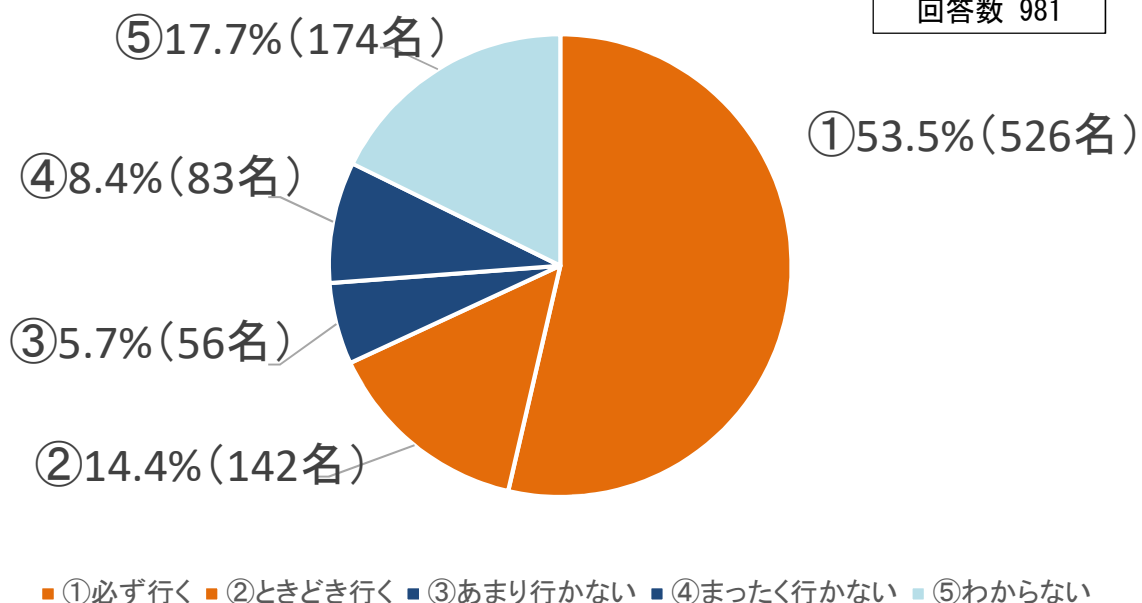


(2) 家族の投票行動について

半数以上の家庭が必ず投票に行き、ときどき行くという家庭も合わせると7割近くが投票に行くという結果となりました。しかし、前年度と比べ、家族が選挙に行っているかどうか分からないという回答が微増しているため、引き続き、家族の投票行動についても関心を高めていくような取組が必要です。

(2) 【授業前】あなたの家族は選挙の投票に行きますか？

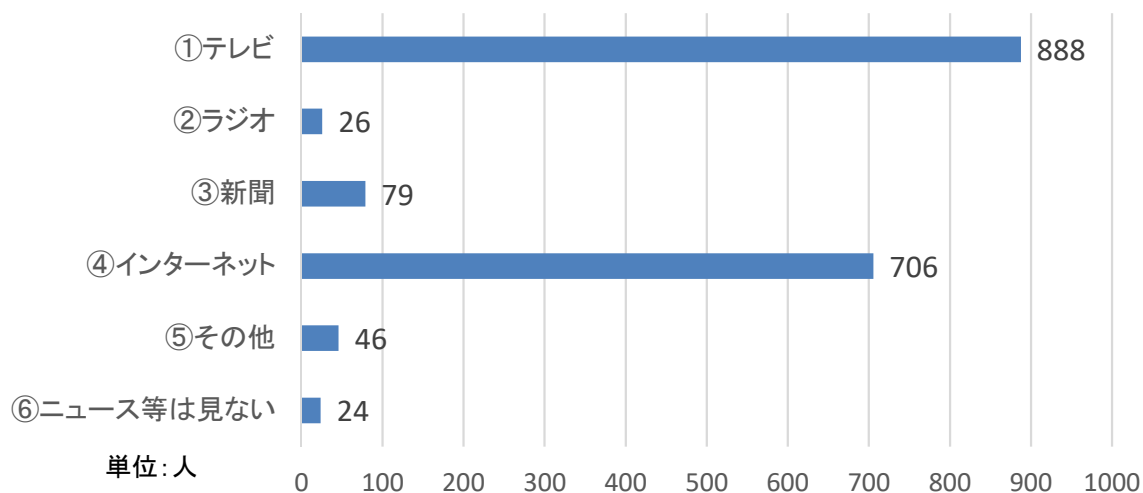
回答数 981



(3) 高校生のニュースソースについて

前年度と同様、政治や社会問題のニュースを見たり聞いたりするのは、テレビが一番多く、次いで、インターネットから情報を得る人が多く、ラジオや新聞から情報を得ている生徒は、少ないことが分かります。

(3) 【授業前】どのメディアで政治や社会問題などのニュースを見たり聞いたりしますか？(複数可)

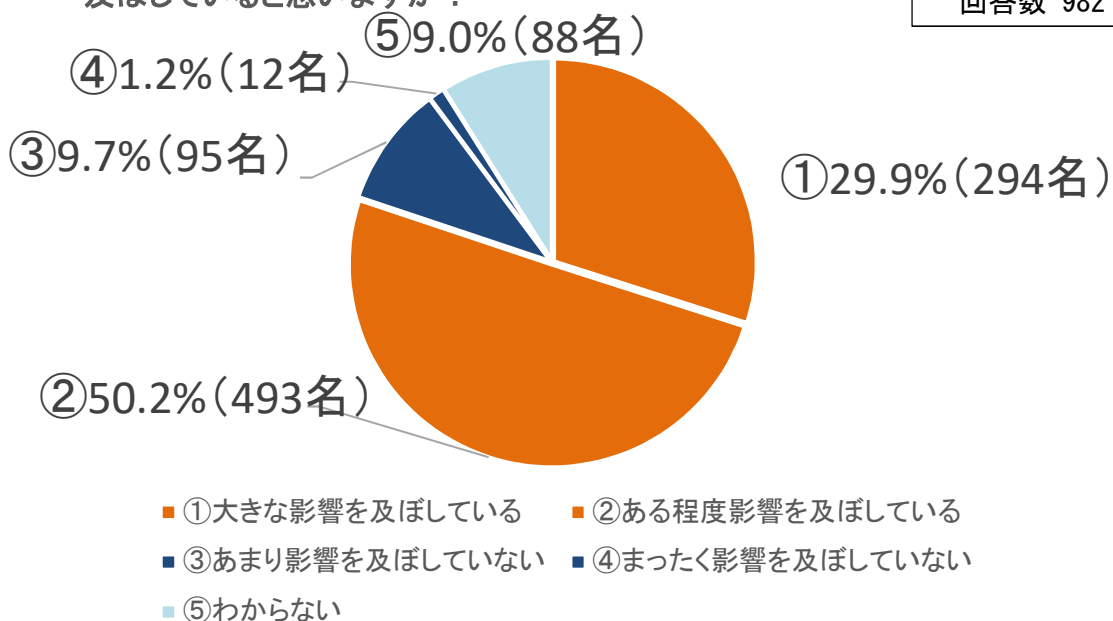


(4) 選挙の意義について

授業実施後、選挙の際に投票することは、政治に影響を及ぼしていると感じている生徒が増加しており、啓発授業を通じて、投票の重要性への理解が深まったことが分かります。

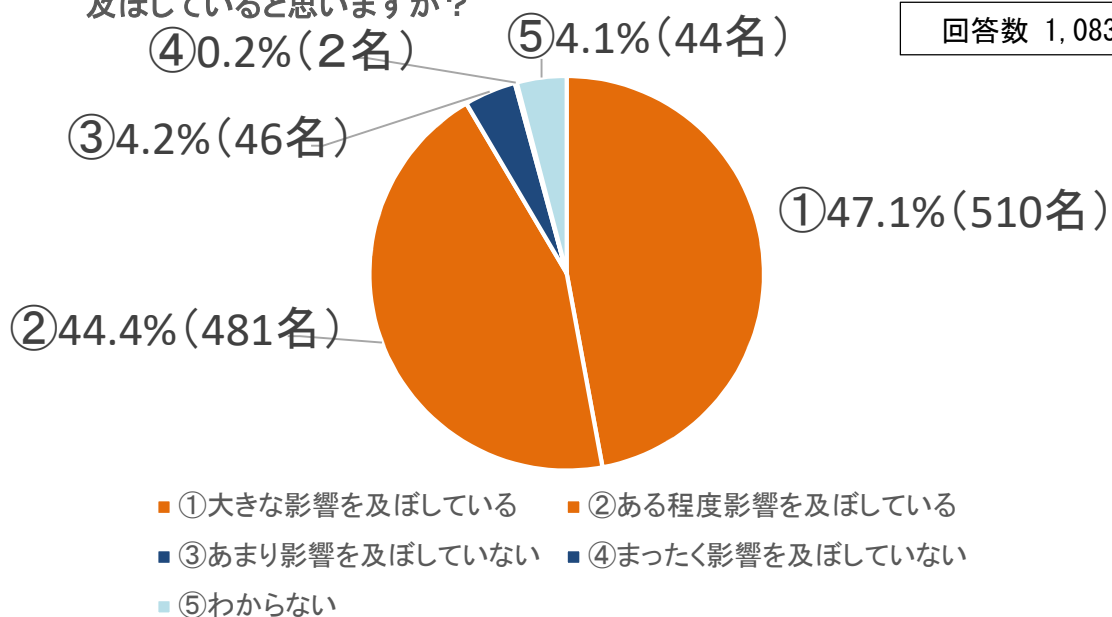
(4)－1 【授業前】選挙の際に投票することは、政治にどの程度影響を及ぼしていると思いますか？

回答数 982



(4)－2 【授業後】選挙の際に投票することは、政治にどの程度影響を及ぼしていると思いますか？

回答数 1,083



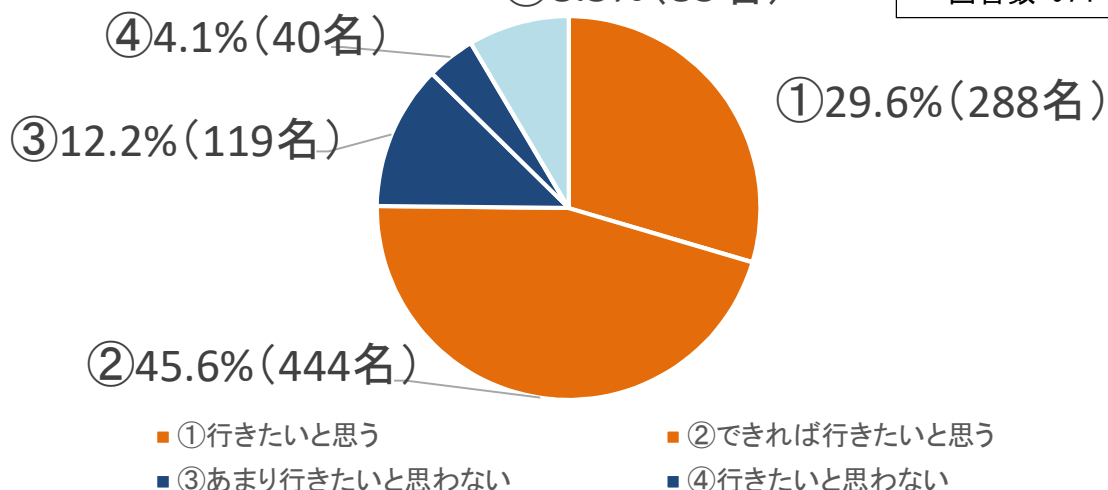
(5) 投票意欲について

授業実施後、投票に行きたいと思う生徒が増加し、全体で9割を超える生徒が投票に行きたいと考えるようになっていきます。

(5)－1 【授業前】18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きたいと思いますか？

⑤8.5%(83名)

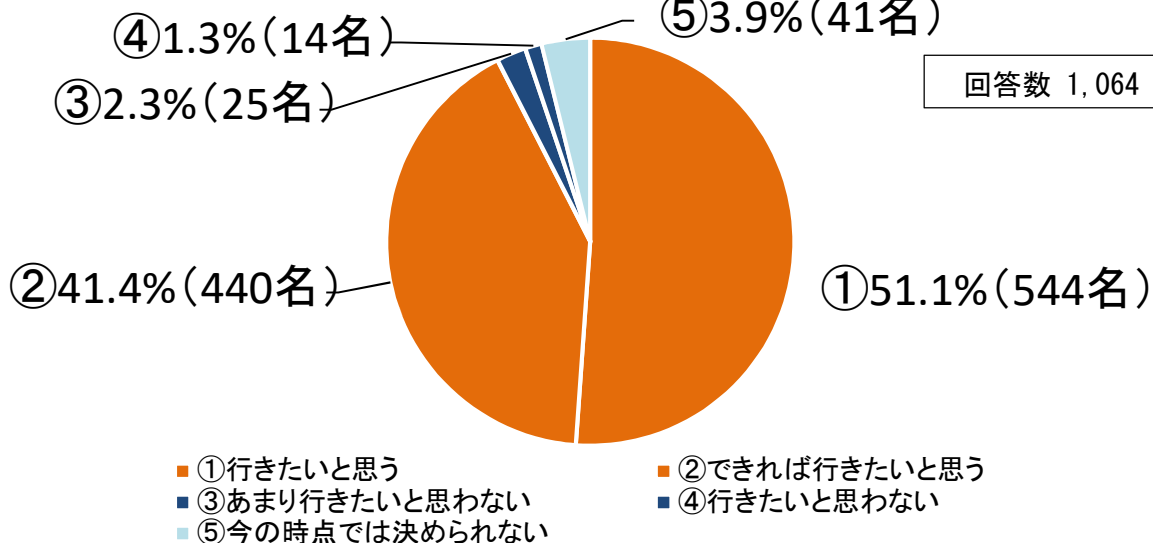
回答数 974



(5)－2 【授業後】今日の授業を受けてみて、あなたは18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きますか？

⑤3.9%(41名)

回答数 1,064



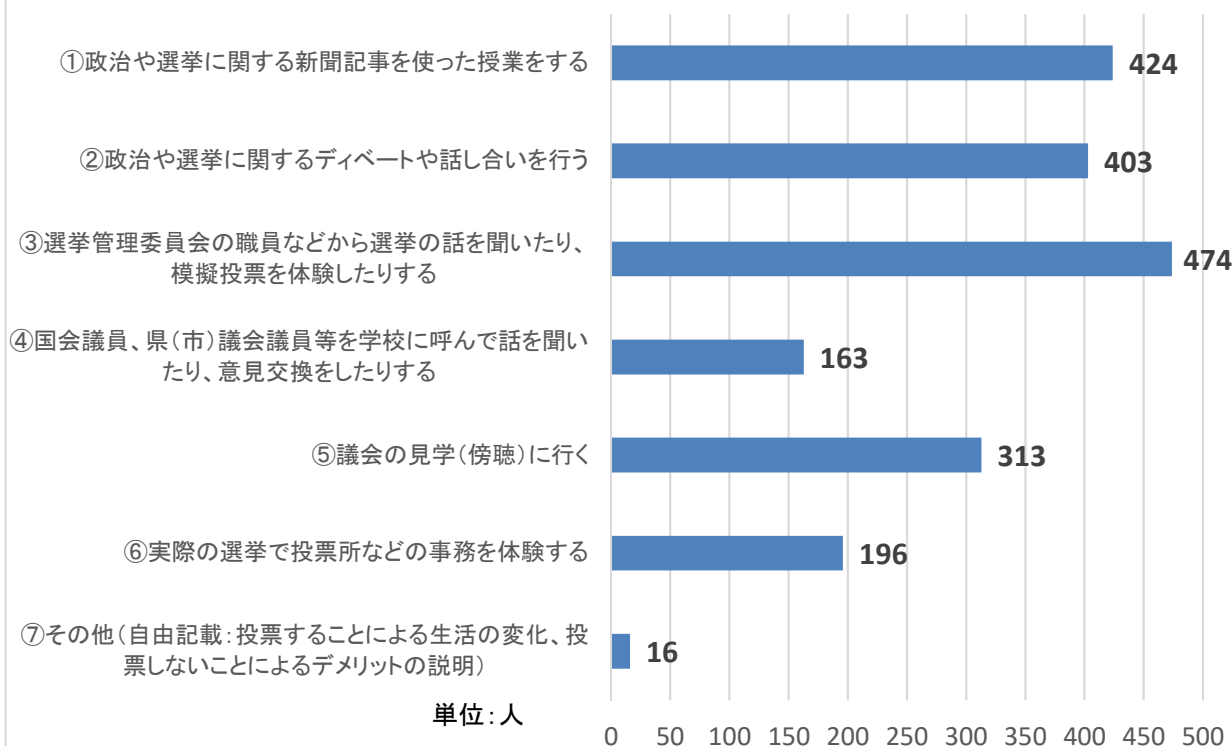
(5)－3 「今日の授業を受けてみて、あなたは18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きますか？」において「③あまり行きたいと思わない」「④行きたいと思わない」「⑤今の時点では決められない」を選択した主な理由

- ・選挙に興味がないから。
- ・政治家への信頼度が薄いから。
- ・行くのがめんどくさい。どの候補者に投票すればいいのかわからない。
- ・投票しても、政治に届いているかわからないから。
- ・選挙の場所までが遠い。
- ・もし、公約で納得する人がいなかったら、投票しないかもしれないから。
- ・用事があって行けないかもしれないから。
- ・時間がないかもしれないから など。

（６）授業の内容等について

前年度と同様、「選挙管理委員会の職員などから選挙の話を聞いたり、模擬投票を体験したりする」の回答が最も多く、次いで「政治や選挙に関する新聞記事を使った授業をする」「政治や選挙に関するディベートや話し合いを行う」が多くなっています。啓発授業の取組を継続して実施していくことに加えて、今後の啓発授業の内容の見直しを図ることも重要と考えられます。

（６）-１【授業後】高校生が政治や社会問題に関心を持つためには、何をすれば良いと思いますか？



（６）-２ 今日の授業内容のほかに取り上げてほしいこと（知りたいこと）はありますか？

・政治家や議員の仕事内容、給料、年収など
・海外の選挙方法など
（少数意見）政治家の公約はどのくらい達成しているか、政治資金規正法について、政治家になるために必要なこと、近年でどんな人が当選してるのか、なぜ60歳以上の人は投票率が高いのか、立候補の方法、選挙の歴史 など

3 授業に関する意見・感想等（授業後アンケート 自由記載 ※抜粋）

（１）授業を受けての変化について

選挙に行くのが面倒であり、選挙や政治について興味も無かったが、授業を通じて、自分の意見を持って投票に行こうと思った、選挙について理解が深まったという記述が見られました。

・授業を受ける前は、「選挙に行くのはめんどくさい」と感じていたが、話を聞くうちに自分も選挙に行こうと思えた。今の社会は、高齢者向けなので、もっと若者の意見を反映していくために、私達も政治に参加しなければいけないと強く思った。

・選挙についてあまり知らなかったが、今回の授業で、選挙の際に注目すべき点を知れたので、18歳になって投票するとき考えやすくなりました。本当の選挙だともっと難しくなるが、自分の考えにあっているものをきちんと選びたいです。

・今までは、1人が投票しなくても、あまり結果に変わらないのではないかと考えていたが、今日の授業を聞いて、自分が投票することで日々の暮らしなどが変わるということが分かった。また、ただ適当に選ぶのではなく、公約を見て評価することで、自分が求めている要望に近い立候補者に投票できるので、自分もしっかりと見極めたい。

・今回の「選挙啓発授業」を経て、選挙についての考えが少し変わりました。そして、模擬選挙での投票体験をしてみて、「選挙ってこんな感じなんだ」と理解を深めることもできました。来年、有権者になり選挙に参加できるようになったときは、投票に行きたいと思いました。

（２）投票意欲の向上について

授業を受けることで、あらためて選挙や政治への関心が高まり、18歳になったら投票に行きたいといった記述が多く見られました。

・今回の講座を通して、選挙のやり方や注意点について詳しく知ることができました。立候補者の公約の信頼度などに注意しながら、投票する候補者を選んで行きたいと思ったし、18歳になったら、投票に行きたいと思います。

・私は、すごく選挙に興味があり、母と一緒にたくさん選挙についての話をします。今日、さらに選挙について考えを深めることができました。18歳になったら、選挙に行きたいです。あらためて、選挙っておもしろいなと思いました。

・選挙に行こうと思えるような内容でした。若者の投票率を上げるには、やはりSNSを使うことが重要だと感じますので、その対策がほしいと考えました。本日は、お忙しい中ありがとうございました。

(3) 模擬投票の有効性について

模擬投票を行うことで、今まで投票の流れが分からなかったが、実際に体験してみると簡単に投票できることが分かった、投票に行くハードルが下がった、投票するというイメージを持てたという記述が多く見られました。

・両親は、いつも投票に欠かさず行っていたので、気になってはいたが、実際はどうやって投票しているのかは知らなかった。今回、体験をしてみて、案外簡単にできることに驚いた。18歳になったら、いつでも選挙に行けるように、今から少しでも政治について学び、より興味を持ちたいと思った。

・模擬投票をやってみて、こんなにすぐ終わるのに、若者はなぜ投票に行かないのだろうと思った。自分は、18歳になったら絶対投票に行きたいと思った。

・今回の模擬投票をやってみて、だいたいのことはわかり、今後、選挙するという意識を持てた。また、公約でこの人が当選したら、本当にやってくれるのかを考えながら選んだ。18歳になったので、選挙があったら積極的に参加したいと思いました。

(4) その他

選挙運動をするに当たって出来ないことや制度があることを知ることができた、若者の一票が大切なものと分かった、ニュースや新聞などの情報もしっかり見て考えることが大切だと感じた、親と一緒に投票に行こうと思ったといった記述が見られました。

・選挙で投票の仕方、選挙運動をするに当たってできないことなどを知れて良かったです。18歳になって有権者になる年なので、選挙に行くときには、今日学んだことを活かせるようにしたいと思いました。

・改めて若者の一票の大切さを感じることができました。自分も来年18歳になり、選挙権を持ち投票する立場になります。面倒くさがらずに自分の意見を持って投票に行きたいと感じました。自分達の生活を変えるのは、自分の大切な一票からということを感じることができました。

・選挙は、一票が大切だと授業を聞いて分かりました。18歳になったら、選挙に行きたいと思います。そのために、政治について学んでいかないとと思いました。模擬投票で選挙の流れが分かりました。世の中のことを知らないといけないので、ニュースなど身近なことから世の中について学んでいきたいです。

・実際に投票箱を使った模擬投票は初めてだったので、良い機会になりました。来年の選挙では、親と一緒に投票しに行こうと思いました。